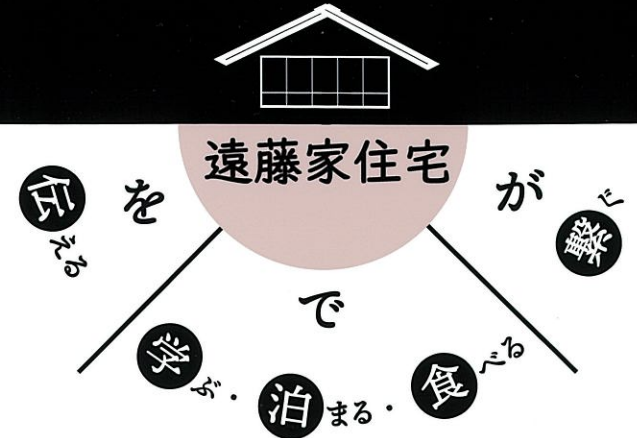


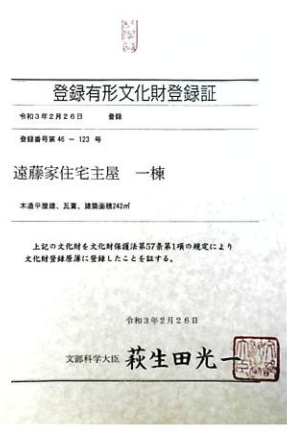
空き家 5 段活用



伝える



建築の歴史的価値を見極め、伝える



繋ぐ



写真家の個展ギャラリーとして



女性グループや幼稚園と連携した季節のイベント舞台



人が繋がり、趣味が仕事に

種子島にある「遠藤家住宅」も空き家となり、その歴史的価値も眠ったままに、一時は解体の危機も迫っていた。そこで、持ち主の方との関係を構築し、建物をお借りして活用を進めている。

建物の歴史的価値を見極め、令和3年2月には、国の有形文化財として登録された。リビングヘリテージとして、老若男女を問わず、地元住民は勿論、観光客、ビジネスマン、車いすの方、、、全ての人に開かれた場所を目指して活用を進めている。学んで、泊まって、食べて、、、空間と思い思いに関係を結び、体験して貰うことで、この場所が社会に絡まり活かされている。

建物の改修は、杉や塗り壁など、自然素材を使用し、家具に至るまで可能な限り地元の材料と地元の職人で作り上げた。また、町で解体される建物があると聞いては、その建具や家具を集めて使用するなど、空間改変行為に伴う環境負荷を軽減し、小さな循環型社会を目指した。その結果、西之表の町の記憶が詰め込まれた建物となっている。

単なる空き家の改修・活用にとどまらず、通りを活性化し、過去と未来、人と人を繋ぎ、小さな営みをグローバルに繋げていく夢の舞台づくりであると信じて活動が続けている。

学ぶ



毎週土曜日は、地元小・中・高校生の学びの場として開放

泊まる



暮らすようにゆったりと過ごす宿としても活用

食べる

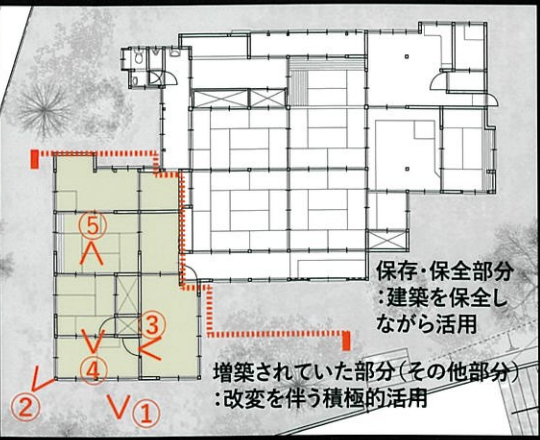


お食事やtakeoutのお惣菜で地域のお年寄りから観光客まで幅広く食で繋がる

改修前 改修後

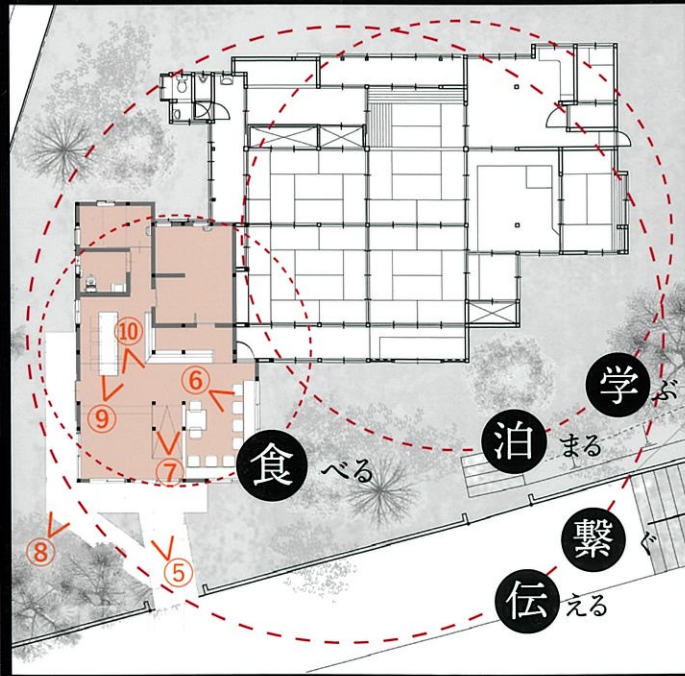


①外壁や庇、軒天は傷みが激しい



保存・保全部分
: 建築を保全しながら活用

増築されていた部分(その他部分)
: 改変を伴う積極的活用



②開口部はアルミサッシ



③床が沈んでいる。庭の緑が美しい。

④天井や内装は新建材 ⑤柱に残る改修の痕跡



縮小社会の中で、改修に地元の材料を使用することは勿論、解体を余儀なくされる近隣の建物で発生する材料も積極的に活用し、建築行為に伴う環境負荷を低減すると共に、町の記憶、建築の地域性を継承していく。



⑤杉板の外壁とポルトガルをイメージしたブルータイル



⑥種子島の武家庭を取り込む客席



⑦街路から食堂まで、車いすでバリアフリーでアプローチ



⑧近隣の解体された建物の建具を再利用



⑨家具は種子島の杉で制作



⑩内装は杉と塗り壁。古いタンスは陳列棚に。